

---

---

# 宮崎県埋蔵文化財センター年報

---

---

第11号

平成19  
(2007)  
年度

2007

## 序

本書は宮崎県埋蔵文化財センターの概要と平成18年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターでは国・県・西日本高速道路(株)等の実施する各種開発事業に伴う発掘調査を行うとともに出土品等発掘文化財の整理、収蔵、公開をすすめ、明らかになった郷土の歴史に関する報告会等によって県民の皆様の郷土に対する理解に役立てるなど埋蔵文化財の保護と活用に積極的に取り組んでいるところであります。

発掘調査では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査については都農～西都間で3遺跡を、門川～日向間で4遺跡を実施し、また、国・県の事業としては北方延岡道路建設関連で1遺跡を、尾鈴農業水利事業で1遺跡を、港湾環境整備事業関連で1遺跡を、県道改良工事で1遺跡の調査を実施いたしました。

主な発掘調査については現地説明会や調査報告会を随時開催し、今後とも県民の皆様に郷土の歴史にじかに触れていただく機会をできるだけ多く持ちたいと考えております。

埋蔵文化財行政の十分な成果が得られるよう今後ともより一層の努力をしてみたいと存じます。

関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成19年5月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 清野 勉

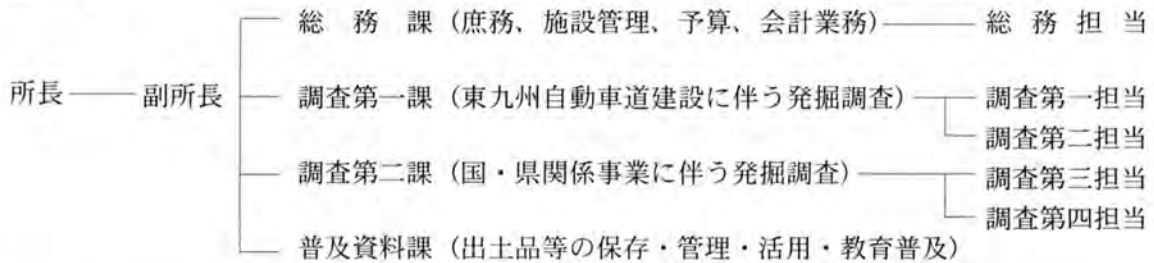
# 目 次

I	組織・施設	1
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	平成18年度の活動状況	4
1	埋蔵文化財緊急調査	4
(1)	発掘調査	4
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	6
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	6
(4)	保存処理	9
(5)	収蔵整理	10
2	教育普及活動	11
(1)	遺物公開	11
(2)	ここまでわかったひむかの歴史～展示を待つ遺物たち～	11
(3)	遺跡が語るひむかの歴史2006～平成17年度の発掘調査報告会～	12
(4)	巡回展	13
(5)	出前講座	13
(6)	施設公開～こんなことをしています～	14
(7)	発掘体験「発掘体験隊 かくれた歴史 みつけた！！」	14
(8)	資料等の提供	15
(9)	見学・研修・体験学習等の受け入れ	20
(10)	広報出版物	20
(11)	ホームページ	21
(12)	現地説明会及び結果報告会	22
(13)	職員派遣	22
(14)	埋蔵文化財専門職員研修会	22
3	会議・職員研修	23
(1)	各種会議等への参加	23
(2)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	23
4	資料紹介	24
	囲遺跡出土の遺物について	
IV	埋蔵文化財センター管理規則	34

# I 組織・施設

組織

(平成19年6月1日現在)



<p>所長 清野 勉</p> <p>副所長 加藤 悟郎</p> <p>総務課</p> <p>課長 宮越 尊</p> <p>総務担当リーダー</p> <p>主幹 高山 正信</p> <p>主査 甲斐 和也</p> <p>主事 遠目塚尚子</p> <p>(高速道路対策局・併)</p> <p>主任主事 矢野 京子</p> <p>調査第一課</p> <p>課長 長津 宗重</p> <p>調査第一担当リーダー</p> <p>副主幹 南中道 隆</p> <p>主査 田村 浩司</p> <p>主任主事 松本 茂</p> <p>(高速道路対策局・併)</p> <p>主査 出山 真次</p> <p>主査 崎田 一郎</p> <p>主査 吉野 達三</p> <p>主査 黒木 秀一</p> <p>主査 小川 太志</p> <p>主査 竹田 享志</p> <p>主査 高橋 浩子</p> <p>主任主事 藤木 聡</p> <p>主事 松元 一浩</p> <p>主事 重留 康宏</p> <p>主事 岡田 諭</p> <p>主事 大野 義人</p>	<p>主事 福田 聡</p> <p>主事 岸田 裕一</p> <p>主事 佐竹 智光</p> <p>主事 石津 晴菜</p> <p>主事 古田 陽</p> <p>調査第二担当リーダー</p> <p>主幹 菅付 和樹</p> <p>主査 白地 浩</p> <p>主任主事 堀田 孝博</p> <p>(高速道路対策局・併)</p> <p>主査 安藤 利光</p> <p>主査 清藤 荘八</p> <p>主査 島木 良浩</p> <p>主査 日高 博司</p> <p>主査 土屋 雄毅</p> <p>主査 向江 修一</p> <p>主査 結城 修</p> <p>主査 田中 敏雄</p> <p>主査 松林 豊樹</p> <p>主任主事 嶋田 史子</p> <p>主事 今塩屋毅行</p> <p>主事 淵ノ上隆介</p> <p>主事 堀口 悟史</p> <p>主事 日高 優子</p> <p>主事 田中 達也</p> <p>主事 児玉 幹</p> <p>主事 小船井 順</p>	<p>調査第二課</p> <p>課長 石川 悦雄</p> <p>調査第三担当リーダー</p> <p>副主幹 福田 泰典</p> <p>主査 谷口 千尋</p> <p>主査 若松 宏一</p> <p>主査 和田 理啓</p> <p>主任主事 甲斐 貴充</p> <p>主事 丹 俊詞</p> <p>主事 柳田 裕三</p> <p>調査第四担当リーダー</p> <p>主幹 近藤 協</p> <p>主査 橋本 憲二</p> <p>主査 黒木 俊彦</p> <p>主査 平山 十四郎</p> <p>主事 二宮 満夫</p> <p>主事 森田 利枝</p> <p>(嘱託)</p> <p>調査員 甲斐 康大</p> <p>調査員 福田 光宏</p> <p>普及資料課</p> <p>課長 楠田 義光</p> <p>主事 柳田 晴子</p> <p>専門員 津隈久美子</p>
--	---	--

## 施設

(佐土原本館) 宮崎市佐土原町下那珂4019

### ① 本館 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建)

事務室	57.76m <sup>2</sup>
所長室	19.86m <sup>2</sup>
情報処理室	33.17m <sup>2</sup>
会議室	78.52m <sup>2</sup>
休憩室	78.52m <sup>2</sup>
調査研究室	248.55m <sup>2</sup>
復元整理室	293.44m <sup>2</sup>
一次処理室	96.81m <sup>2</sup>
図面整理室	61.62m <sup>2</sup>
写場	64.20m <sup>2</sup>
暗室	12.65m <sup>2</sup>
一次保管室 (2層)	188.00m <sup>2</sup>
図書室 (2層)	193.88m <sup>2</sup>
荷捌室	43.01m <sup>2</sup>
その他	276.00m <sup>2</sup>
小計	1,745.99m <sup>2</sup>

### ② 附属建物 (鉄骨造)

整理作業棟	216.76m <sup>2</sup>
-------	----------------------

### ③ 附属建物 (鉄骨造)

収蔵庫棟	693.75m <sup>2</sup>
------	----------------------

①+②+③ 合計	2,656.50m <sup>2</sup>
----------	------------------------

リース建物

### ④ 調査研究室 (鉄骨造)

職員室	247.06m <sup>2</sup>
-----	----------------------

更衣室	54.51m <sup>2</sup>
-----	---------------------

小計	301.57m <sup>2</sup>
----	----------------------

"

### ⑤ 東九州道棟 (鉄骨造)

整理作業室	453.61m <sup>2</sup>
-------	----------------------

小計	453.61m <sup>2</sup>
----	----------------------

④+⑤ 合計	755.18m <sup>2</sup>
--------	----------------------

本館合計	3,411.68m <sup>2</sup>
------	------------------------

(神宮分館) 宮崎市神宮2丁目4-4

### ① 分館 (鉄筋コンクリート造2階建) 1,652.38m<sup>2</sup>

1階	877.58m <sup>2</sup>
----	----------------------

一次処理室	121.20m <sup>2</sup>
-------	----------------------

復元整理室	148.30m <sup>2</sup>
-------	----------------------

保存処理室	49.30m <sup>2</sup>
-------	---------------------

(鉄器)	22.70m <sup>2</sup>
------	---------------------

(木器)	26.60m <sup>2</sup>
------	---------------------

研修室	143.20m <sup>2</sup>
-----	----------------------

事務室	41.80m <sup>2</sup>
-----	---------------------

展示室	150.00m <sup>2</sup>
-----	----------------------

器材庫	11.00m <sup>2</sup>
-----	---------------------

エントランスホール他	212.78m <sup>2</sup>
------------	----------------------

2階	774.80m <sup>2</sup>
----	----------------------

写場・暗室	49.30m <sup>2</sup>
-------	---------------------

写真保管室	35.10m <sup>2</sup>
-------	---------------------

図面保管室	53.10m <sup>2</sup>
-------	---------------------

収蔵整理室	19.30m <sup>2</sup>
-------	---------------------

収蔵室	564.00m <sup>2</sup>
-----	----------------------

特別収蔵室	54.00m <sup>2</sup>
-------	---------------------

## Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事 項
1980 1981 1982	昭和55 56 57. 1. 9 7. 29 10. 2	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案 基本設計を実施 起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」（講師：国立民族学博物館教授佐々木高明）。
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群－遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行。 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平成1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳－遺物編」刊行。 兼務職員が13名となる。
1991	3. 3. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡－資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。 設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82-'91」を開催する。 脱塩装置・赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設。
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成。 屋根防水工事完了。 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3. 17	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名になる。
2000	12. 1. 20 4. 1 9. 30	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。職員52名、非常勤職員12名となる。 分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤職員16名となる。 調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤職員15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名採用）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧醸検定工場を農政企画課から所管換え。
2005	17. 3. 8 4. 1 17. 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員7名採用）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東畦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員64名（うち任期付き職員18名）。非常勤職員8名となる。
2007	19. 6. 1	職員64名（うち任期付き職員19名）。非常勤職員3名となる。

### Ⅲ 平成18年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成18年度は以下に記述する事業を実施した。

#### 1 埋蔵文化財緊急調査

##### (1) 発掘調査

東九州自動車道や国道をはじめ、国、県施設の建設に伴う確認調査や発掘調査を実施している。平成18年度は板平遺跡(日向市)、中山遺跡(日向市)、尾花A遺跡(川南町)、黒仁田遺跡(延岡市)、明野遺跡(川南町)、立野遺跡(小林市)などの遺跡の本調査を実施した。

##### 平成18年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	板平遺跡	日向市 大字富高	旧石器 縄文早期  縄文後期 弥生～古墳 中世	集石遺構19 炉穴12 土坑1 竪穴住居4  掘立柱建物11	石核、剥片 貝殻条痕文土器  土器 土器、石庖丁 石鏃、車輪石 土師器、青磁	H18. 4. 1 } H18.10. 4	5,900㎡	向江修一 田中敏雄 石津晴菜 土屋雄毅 三品典生 瀧ノ上隆介	東九州自動車道(門川～日向間)建設
2	池ノ下遺跡	日向市 大字塩見	旧石器  弥生	なし	角錐状石器  弥生土器	H18. 5.22 } H18. 8. 2	1,324㎡	土屋雄毅 三品典生	東九州自動車道(門川～日向間)建設
3	中山遺跡	日向市 大字塩見	旧石器 中世～近世	溝状遺構、炉跡、掘立柱建物2	剥片 土師質土器、 土錘、中国製磁器、国産陶磁器	H18. 9.25 } H19. 3.31	3,600㎡	田中敏雄 瀧ノ上隆介 土屋雄毅 石津晴菜	東九州自動車道(門川～日向間)建設
4	大谷尻遺跡	日向市 大字平岩	近世	なし	陶器片 瓦片	H18.12. 4 } H18.12.12	572㎡	三品典生 向江修一	東九州自動車道(門川～日向間)建設



	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
5	尾花A遺跡(三次A)	川南町大字川南	旧石器  縄文早期 前期 後晩期 弥生中期 ～古墳前期 時期不明	集石遺構46 炉穴1  竪穴住居34 土坑10 溝状遺構1 溝状遺構5 土坑10	角錐状石器、 ナイフ形石器 細石刃 押型文土器 石鏃、石斧 磨石 土器、石庖丁 土師器、鉄器 石器	H18.4.1 ) H18.11.29 (H17年度 から継続)	2,980㎡	結城 修 小川太志 松林豊樹 佐竹智光 小船井順	東九州自動車道(都農～西都間)建設
6	尾花A遺跡(三次B)	川南町大字川南	縄文早期  弥生後期 ～古墳前期 時期不明	集石遺構20 土坑2 竪穴住居76 土坑124 溝状遺構1 掘立柱建物7 溝状遺構10	押型文土器、石 鏃、石斧 土器、石庖丁、 鉄鏃、土師器 勾玉、磨石	H18.4.1 ) H18.12.1 (H17年度 から継続)	3,500㎡	日高博司 高橋浩子 堀口悟史 田中達也 児玉 幹	東九州自動車道(都農～西都間)建設
7	尾花A遺跡(三次C)	川南町大字川南	縄文早期  晩期 弥生後期 ～古墳前期  中世 時期不明	集石遺構32  配石遺構1 竪穴住居38 土坑32  掘立柱建物3 溝状遺構6	押型文土器、石 鏃、石斧 孔列文土器 土器、土師器 石庖丁、勾玉 紡錘車 青磁、滑石	H18.4.5 ) H18.11.29	4,260㎡	出山真次 山田洋一郎 岸田裕一 福田光宏	東九州自動車道(都農～西都間)建設
8	南中原第1遺跡(二次)	高鍋町大字上江	旧石器 縄文早期  縄文後期 弥生後期 時期不明	礫群1 集石遺構5 土坑3 環状ピット群1 竪穴住居1 溝状遺構3 道状遺構3	剥片、石核 押型文土器、石 鏃 石錘、磨石 土器、炭化材	H18.11.20 ) H19.3.29	1,500㎡	土屋雄毅 島木良浩 山田洋一郎 福田光宏 田中達也 児玉 幹 小船井順	東九州自動車道(都農～西都間)建設
9	北牛牧第5遺跡(三次)	高鍋町大字上江	旧石器 ～縄文 古墳以降 近世以降	なし	剥片  土師器 陶磁器	H18.11.20 ) H18.12.22	240㎡	白地 浩 安藤利光 小船井順	東九州自動車道(都農～西都間)建設
10	立野遺跡	小林市大字南西方	縄文早期  縄文晩期 弥生中期 時期不明	土坑・ピット	撚糸文・平柵式 土器、剥片 石匙、石鏃 弥生土器	H18.8.21 ) H18.10.30	570㎡	丹 俊詞 谷口千尋	地方道路 交付金事 業南西方 工区道路 改良工事



	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
11	堀川運河跡（第9次調査）	日南市大字春日町	大正～昭和	運河護岸石積み	—	H18.6.9 ） H19.1.11	374m <sup>2</sup>	柳田祐三 谷口千尋 和田理啓	堀川運河港湾環境整備事業
12	黒仁田遺跡	延岡市北方町	旧石器 縄文早期 古墳	焼土土抗1 集石遺構1 竪穴住居12 土抗4	細石刃核、ナイフ形石器 石鏃、石匙 土師器、石庖丁、鉄鏃	H18.5.8 ） H18.12.8	12,000m <sup>2</sup>	平山十四郎 橋本憲二 黒木俊彦 古屋美樹	一般国道218号北方延岡道路建設
13	明野遺跡	川南町大字川南	旧石器 縄文早期	礫群1	ナイフ形石器 搔器、剥片、石核、石刃 貝殻条痕文・押型文・無文・貝殻刺突文土器	H18.11.15 ） H19.1.31	750m <sup>2</sup>	黒木俊彦 橋本憲二	尾鈴農業水利事業銀座第一ファームボンド工事

## (2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な調査を要する遺跡の調査にあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の専門の研究者を招聘した。

### 調査指導

所属・氏名	指導内容	場所	日程
渋川市教育委員会図書管理グループセンター 大塚 昌彦	尾花A遺跡（三次調査）における焼失住居の調査方法についての指導	尾花A遺跡（三次調査）	H18.7.10～11
愛知県埋蔵文化財センター 赤塚 次郎	DTPに関わる効率的な環境整備と報告書作成における留意点等についての指導	埋蔵文化財センター本館	H18.7.27～28
明治大学管財部施設課 明治大学校地内遺跡調査団調査事務所 野口 淳	旧石器時代遺跡の構造的 Understanding についての指導	埋蔵文化財センター本館	H18.10.5～6
鹿児島県歴史資料センター黎明館 東 和幸	胎土中の鉱物に着目した土器観察についての指導	埋蔵文化財センター分館	H19.3.2～3

## (3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。平成18年度に整理を実施した遺跡は49遺跡で、内訳は東九州自動車道関係及び一般国道10号等西日本高速道路株式会社、国からの受託事業が44遺跡、県土木事務所関係4遺跡、県関係1遺跡である。

平成18年度までに整理作業を終了した32遺跡については発掘調査報告書を刊行した。

出土遺物等整理対象遺跡一覧

事業名	東九州自動車道（都農～西都間）建設
事業者	西日本高速道路株式会社九州支社宮崎工事事務所
遺跡名	朝倉（尾立第2）遺跡、朝草原・尾立第3遺跡、立野第1・第2・第5遺跡、八幡第2遺跡、登り口第1遺跡、登り口第2遺跡、市納上第2遺跡、中ノ迫第1遺跡、中ノ迫第1（二次）遺跡、中ノ迫第2遺跡、中ノ迫第3遺跡、前ノ田村上第2遺跡、赤坂遺跡、国光原遺跡、湯牟田（二次）遺跡、西ノ別府遺跡、尾花A（一次）遺跡、尾花A（二次）遺跡、尾花A（三次A）遺跡、尾花A（三次B）遺跡、尾花A（三次C）遺跡、野首第1遺跡、南中原第1遺跡、小並第1遺跡、牧内第1遺跡、東畦原第1（一次）遺跡、勘大寺（二次）遺跡、永牟田第2遺跡、尾小原（一次）遺跡、尾小原（三次）遺跡、野首第2遺跡、宮ノ東遺跡

事業名	東九州自動車道（門川～日向間）建設
事業者	西日本高速道路株式会社九州支社延岡工事事務所
遺跡名	分蔵遺跡、板平遺跡

遺跡名	事業名	事業者
筆無遺跡	地域連携推進道路整備事業 都城東環状線（今町工区）	宮崎県都城土木事務所
曾井第2遺跡	一般国道269号交通円滑化事業	宮崎県宮崎土木事務所
吉牟田遺跡	地域連携機能強化整備事業 都城野尻線（氏益工区）	宮崎県都城土木事務所
立野遺跡	地域道路交付金事業南西方工区道路改良工事	宮崎県小林土木事務所
平田遺跡	一般国道10号都城道路建設	国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所
諸麦遺跡	一般国道10号都城道路建設	国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所
赤木遺跡（一次）	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
赤木遺跡（二次）	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
赤木遺跡（三次）	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
山田遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
別府町遺跡	宮崎法務総合庁舎建設事業	九州地方整備局鹿児島営繕事務所
大島畠田遺跡	大島畠田遺跡整備活用支援事業	宮崎県

発掘調査報告書刊行一覧

	号	報告書名	副書名	執筆・編集者
1	133	尾小原遺跡（第一次調査）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書35	新町芳伸／藤木聡
2	134	永牟田第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書36	嶋田史子
3	135	今井野第2遺跡・天下城山遺跡	一般国道10号延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	橋本英俊
4	136	野門遺跡	一般国道10号延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	赤崎広志
5	137	別府町遺跡	宮崎法務総合庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	橋本英俊
6	138	屋敷遺跡	一般国道10号花見バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	橋本英俊
7	139	分蔵遺跡	東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1	洞ノ上隆介
8	140	東畦原第1遺跡（第一次調査）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書37	外山宏幸／松本茂
9	141	登り口第1遺跡・登り口第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書38	白地浩／小川大志
10	142	藤山第1遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書39	小山博
11	143	中ノ迫第1遺跡（一次・二次）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書40	安藤利光／島木良浩
12	144	中ノ迫第3遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書41	渡辺美幸
13	145	赤木遺跡第8地点（第二次調査）	一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)	甲斐貴充
14	146	山田遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)	赤崎広志
15	147	朝草原遺跡・尾立第3遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書42	井上美奈子
16	148	八幡第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書43	森本証明
17	149	国光原遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書44	安藤正純
18	150	尾小原遺跡（第三次調査）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書45	岡田 論
19	151	赤坂遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書46	興沼慶一
20	152	湯牟田遺跡（二次）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書47	松元一浩
21	153	勘大寺遺跡（二次）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書48	立神勇志
22	154	吉牟田遺跡	県道都城野尻線（氏益工区）地域連携機能強化道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	柳田裕三

	号	報告書名	副書名	執筆・編集者
23	155	吉野第2遺跡	一般国道10号延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3	日高広人
24	156	立野第5遺跡・立野第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書49	日高優子
25	157	野首第1遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書50	堀田孝博
26	158	野首第2遺跡（第1分冊）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書51	松本茂／重留康宏
27	159	小並第1遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書52	栗山正明／長津宗重
28	160	平田遺跡D地点・E地点	一般国道10号都城道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1	日高広人／久保春夫

#### (4) 保存処理

保存処理室では、鉄製品や木製品を保存処理している。宮崎県は、地下式横穴墓から多量の鉄製品が良好な状態で出土するため、年次的に鉄製品保存処理関係機器を整備してきた。木製品については、PEG含浸装置等が未設置であるため、委託あるいはバキュームシーラーでのパッキング等で対応している。また、市町村教育委員会からの備品の利用や保存処理の依頼についても受け入れている。平成18年度は、11遺跡の資料について処理を行った。

#### 保存処理・調査研究関係備品一覧

設置場所	機器名	製品名（規格）	製造会社名	購入年	備考
鉄器保存処理室 (分館)	送風定温乾燥機	DN-61型	ヤマト科学	1983	漏電ブレーカー
	定温乾燥機	DN-94型	ヤマト科学	1992	
	鉄器樹脂含浸装置	300×1200		1983	
	精密噴射加工機	POWER BLAST 50N	岡本歯研	1992	
	小型グラインダー	ミニタースタンダー	関東機器	1993	
	軟X線装置	ソフテックス SPC-1501	ソフテックス	1991	TVシステム
	小型空気圧縮機	EF-OUKT	日立製作所	1983	
	ドラフトチャンバー	CSF-K15	島津理化	1992	
木器保存処理室 (分館)	脱塩洗浄処理装置		滝口製作所	1992	
一次処理室 (分館)	超音波洗浄機	5200J4	シャープ	1991	
	卓上バキュームシーラー	SQ-202	サランラップ	1991	SQドレン付

設置場所	機器名	製造名(規格)	製造会社名	購入年	備考
復元処理室 (本館)	実体顕微鏡	SMZ-2T	ニコン	1991	写真撮影装置付
写場 (本館)	赤外線カメラ	IRRS-100	浜松ホトニクス	1992	

#### 平成18年度鉄器保存処理実施遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
湯牟田	短剣・鉄鏃・鉄片・板状鉄斧など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
竹淵C	鉄鏃・刀子など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
下那珂	鉄鏃・刀子など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
山崎上ノ原第2(三次・四次)	鉄鏃・刀子・鎌・不明鉄器など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
中山	釘・杓仗など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
筆無B～D2地点	刀子など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
黒仁田	鉄鏃など	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
尾花A	鉄鏃・鉄片・刀子など	土、錆を落とし、エタノール洗浄。
宮ノ東	鉄鏃・刀子・不明鉄器など	土、錆を落とし、エタノール洗浄。
湯牟田	遺構の切り取り(炭化鋤)	保存処理終了。
尾花A	遺構の切り取り(炭化材、芽?)	保存処理終了。

#### (5) 収蔵整理

##### ① 収蔵庫(分館)

分館収蔵庫では、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成18年度末における収蔵量はコンテナ8,239箱である。

##### ② 収蔵庫(本館)

平成18年度に完成した新収蔵庫には、ピックアップ遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成18年度は、コンテナ1,334箱(報告書刊行済みの登録待機遺物の一部)を搬入した。これまでに搬入した分と合わせると、コンテナ6,776箱の収蔵量となった。

##### ③ 登録作業

分館において実施している従来の登録法による平成18年度の実績は、4遺跡、コンテナ210箱である。よって、計161遺跡、コンテナ4,323箱となった。また累積し続ける未登録資料の解消を図るために、平成18年度から運用を始めた新登録法による登録の実績は5遺跡、コンテナ37箱である。よって、平成18年度の登録収蔵の総累計は、166遺跡、コンテナ4,360箱である。

#### 平成18年度登録収蔵実績

No.	遺跡名	所在地	主な時代	登録法	報告書 No.
1	木脇遺跡	国富町	旧石器後期、縄文草創期・早期、古墳、古代、中世	旧	43
2	迫内遺跡	宮崎市	古墳、中世	旧	59
3	蔵座村遺跡	川南町	旧石器、縄文早期、弥生中期・後期	旧	53
4	南学原第1遺跡	佐土原町	旧石器、縄文早期	旧	50
5	登り口第1遺跡	川南町	旧石器、縄文	新	141
6	登り口第2遺跡	川南町	縄文、古墳、中世	新	141
7	朝草原遺跡	都農町	旧石器終末、縄文草創期・早期	新	147
8	尾立第3遺跡	都農町	旧石器終末、縄文草創期・早期	新	147
9	吉牟田遺跡	高原町	縄文、弥生、古代、近世	新	154

※ 所在地は市町村合併前の旧市町村である。



#### ④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成18年度は2,710冊の受け入れがあり、合計収蔵数は53,990冊になる。図書類は昨年度よりバーコードを利用した図書管理システムを導入し、パソコンによるデータベース登録を実施している。

## 2 教育普及活動

分館では、これまでの発掘調査の成果を紹介する遺物公開を行っている。その他エントランスホールから整理作業の様子を見学できるようにしている。

平成18年度からは「ここまでわかったひむかの歴史」と題し年6回（5、8、9、11、1、3月の第4土曜日）の講演と内容に合わせた遺物公開を行っている。また巡回展および学校や地域学級等への出前講座を行っている。11月の文化財保護強調週間に合わせて「施設公開」を開催した。

なお、平成18年度から佐土原の本館と神宮の分館の同時開催とした。

### (1) 遺物公開

#### ① 常設展示

- ・下耳切第3遺跡（高鍋町）出土縄文時代後期深鉢（正面ケース）
- ・山内石塔群（宮崎市）出土五輪塔（中庭）
- ・内野々遺跡（美郷町）火山灰土層断面剥ぎ取りパネル
- ・内野々遺跡（美郷町）集石遺構モデル
- ・西畦原第2遺跡（新富町）陥し穴剥ぎ取りパネル
- ・埋蔵文化財・調査の流れ・宮崎の歴史年表・発掘調査に関する解説パネル及び発掘調査に必要な道具

#### ② 発掘調査の成果展（随時更新）

事業・遺跡名	公開内容
「東九州自動車道関連発掘調査（西都～清武間）」 町屋敷遺跡（宮崎市）	弥生時代・古墳時代の壺、甕など クスノキ製大鉢、堰跡の杭などの出土木製品
「東九州自動車道関連発掘調査（西都～清武間）」 上ノ原遺跡・長蘭原遺跡（宮崎市）	旧石器時代の遺物と石材の色の関係 剥片尖頭器、ナイフ形石器と各地の原石
「主要地方道宮崎島之内線ふるさと県道整備事業」 山崎上ノ原第1遺跡（宮崎市）	古墳時代 20号竪穴住居跡出土の土師器 銅製馬鈴など
「一般国道269号交通円滑化事業」 曾井第2遺跡（宮崎市）	永正18年（1521年代）の六地藏幢の拓本
「一般県道清武インター線道路改築事業」 竹之内遺跡（清武町）	土坑内で入れ子状態で出土した市来式土器群 軽石製岩偶、チャート製石偶、翡翠製装飾品など

### (2) ここまでわかったひむかの歴史 ～展示を待つ遺物たち～

年間6回（5、8、9、11、1、3月）の第4土曜日の午後1時30分から3時まで講演会を開催している。講演会に先立ち、その前後の約2か月間、遺物公開を行っている。講師は県内市町村の埋蔵文化財担当者や埋蔵文化財センター職員が務めている。

#### 講演日及び講演名等

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 H18. 5. 27	「山里の生活」～縄文時代と弥生時代～ 市納上第1・第4遺跡（川南町）	宮崎県埋蔵文化財センター 岡田 論 ・ 森本 征明	26名

開催日	講演名	講師	参加者
第2回 H18. 8.26	「延岡城跡第24次（内堀調査の概要）」 ～新発見石垣胴木などを中心として～	延岡市教育委員会 尾方 農一	34名
第3回 H18. 9.23	「縄文時代の夜明け」 赤石・天神本遺跡（川南町）	宮崎県埋蔵文化財センター 島木 良浩	23名
第4回 H18.11.25	「中世の墓」考 大内原遺跡（川南町）	宮崎県埋蔵文化財センター 白地 浩	15名
第5回 H19. 1.27	「宮崎の狩人たち」 東畦原第1遺跡（新富町）	宮崎県埋蔵文化財センター 松本 茂	30名
第6回 H19. 3.24	「鏡が照らす古墳時代」～住居出土の鏡～ 西ノ別府遺跡（川南町）	宮崎県埋蔵文化財センター 三品 典生	32名

### (3) 遺跡が語るひむかの歴史2006 ～平成17年度の発掘調査報告会～

昨年度までは埋蔵文化財講座「講演と調査報告会」の形で開催していたが、平成18年度から、より多くの県民が参加できるように、昨年度発掘調査を実施した遺跡から地域、時代、事業等を考慮して14遺跡を選び1遺跡1テーマで報告を行った。

開催日	時間	場所	参加者
H18.7.29	9:50～15:30	宮崎県立図書館	144名

	遺跡名	報告内容	担当者
1	筆無遺跡（都城市）	石でつくった帯かざり	福田 泰典
2	吉牟田遺跡（高原町）	縄文後期の土器アート	柳田 裕三
3	堀川運河跡（日南市）	石積み語る運河	柳田 裕三
4	曾井第2遺跡（宮崎市）	江戸時代の寺は語る	甲斐 貴充
5	赤木遺跡第8地点（延岡市）	氷河時代の石器	平山十四郎
6	諸麦遺跡（都城市）	花の形の弥生住居	黒木 俊彦
7	別府町遺跡（宮崎市）	コンクリートの下に眠る遺跡	橋本 英俊
8	板平遺跡（日向市）	ただいま発掘調査実施中！	向江 修一
9	朝倉遺跡（都農町）	旧石器時代の暮らし	岸田 裕一
10	前ノ田村上第2遺跡（川南町）	どうやってほったの、この穴？	嶋田 史子
11	立野第2遺跡（都農町）	縄文人のすきな場所	日高 優子
12	国光原遺跡（川南町）	縄文の台所	安藤 正純
13	尾小原遺跡（三次）（新富町）	土器文様のクロスロード	岡田 諭
14	尾花A遺跡（川南町）	サビにかくされた真実	大野 義人



#### (4) 巡回展

発掘調査によって得られた成果を県民に広く知っていただくため、これまでは分館で遺物公開を行ってきた。平成18年度から分館を出て、本センター調査成果を公開し、埋蔵文化財に慣れ親しんでいただくとともに、埋蔵文化財センターの業務を多くの方々に知っていただける企画を行った。

	開催期間	時間	場所	公開遺物
1	H18. 7.27 } H18. 8. 6	9:00~19:00	宮崎県立図書館	平成17年度発掘遺跡速報パネル（14遺跡） 国事業・県事業・東九州自動車建設関連遺跡 の赤木遺跡、筆無遺跡、尾花A遺跡など
2	H18.12. 1 } H18.12.17	10:00~18:00	三股町立図書館	都城、西諸県地区の発掘調査遺跡の紹介パネル、 埋文センターの施設紹介、発掘調査、整理 作業の紹介パネルなど



報告会の様子(県立図書館)



巡回展の様子(県立図書館)

#### (5) 出前講座

平成18年度から、「甦れふるさとの遺跡と歴史」として、高齢者クラブ等を対象とした埋蔵文化財出前講座、「ふるさを語る児童・生徒の育成」の視点から、学校への埋蔵文化財出前講座を実施した。

開催日	時間	依頼者	内容	参加者
H18. 6. 7	9:35~10:20	宮崎市立大塚小学校	縄文～古墳時代の遺構や遺物を学校周辺の遺跡も含め説明	158名
H18. 7.25	10:15~12:00	西臼杵地方学園 (西臼杵教育事務所)	布平・古城遺跡など西臼杵郡内の遺跡と出土遺物についての説明	31名
H18.10.25	10:40~12:40	都城市立高城小学校	学校近郊の遺跡資料紹介と縄文～古墳までの通史	86名
H19. 2. 9	10:40~12:20	諸塚村立諸塚小学校	縄文・弥生・古墳時代の生活について、諸塚村（又は入郷地区）出土の遺物を含め説明	13名

### (6) 施設公開 ～こんなことをしています～

毎年11月第1週の文化財保護強調週間に実施している。平成18年度から本館と分館の同時開催とし、多くの県民が埋蔵文化財センターの事業内容を知り、埋蔵文化財に親しんでいただく機会とした。

開催日	内容	参加者	
H18.11. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験コーナー                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物の土器を持つての記念写真</li> <li>・土器の洗浄</li> <li>・土器の拓本</li> </ul> </li> <li>○見学・観察コーナー                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・出土遺物公開</li> <li>・実体顕微鏡（火山灰観察）</li> <li>・赤外線TV装置（本館のみ）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実測（図面あわせクイズ）</li> <li>・土器の接合</li> <li>・調査報告書紹介</li> <li>・収蔵庫見学</li> <li>・軟X線装置（分館のみ）</li> </ul>	本館 103名 分館 69名



施設公開の様子(土器の接合)



施設公開の様子(土器の水洗)

### (7) 発掘体験「発掘体験隊 かくれた歴史 みつけた!!」

郷土の歴史への興味・関心を高め、埋蔵文化財を大切にすることを育てること、さらに埋蔵文化財センターの業務についての理解を深める一助とすることを目的として発掘体験を実施した。当事業は、昨年度に埋蔵文化財講座の中で夏休み特別企画「体験講座」として初めて実施され、平成18年度は教育普及事業の一つとして独立し、年2回の開催を行った。

開催日	開催地・内容	参加者
1回目 H18.7.2(日) (雨天のため H18.6.25から 一週間の延期)	尾花A遺跡(川南町) (1) 埋蔵文化財センターの仕事について説明 (2) 尾花A遺跡で出土した遺物の話 ・石器の話    ・土器の話 (3) 土器作り(陶土で作成、焼成なし) *当日悪天候のため屋外での発掘体験は中止し、現場プレハブでの体験内容に変更	55名
2回目 H18.10.7(土)	黒仁田遺跡(延岡市北方町) (1) 現場と埋蔵文化財センターの仕事について説明 (2) 古墳時代の竪穴住居跡の発掘 (3) 測量器材(レベル)の取り扱い実演と体験	14名



発掘体験の様子（尾花A遺跡）



発掘体験の様子（黒仁田遺跡）

### (8) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可があり、平成18年度には館内利用が19件、館外貸出が11件、掲載許可が6件であった。

#### 館内利用

遺跡・利用資料	利用者	利用目的	利用日
小山尻東遺跡、赤坂遺跡、平畑遺跡、堂地東遺跡、西下本庄遺跡、竹淵C遺跡、市位遺跡、本宮遺跡（緑釉陶器）	個人	論文作成のための資料調査	H18. 5.18
音明寺第1遺跡、唐木戸第3遺跡、老瀬坂上第3遺跡、唐木戸第4遺跡、東畦原第1遺跡（旧石器）	個人	博士論文作成のための資料調査	H18. 6.20 ～21
前原北遺跡、市位遺跡、堂地東遺跡（弥生土器）	個人		H18. 7.10
野首第1遺跡、東畦原第3遺跡、高野原遺跡第5地点、唐木戸第1遺跡、音明寺第2遺跡（二次調査）、東畦原第2遺跡、音明寺第1遺跡、牧内第1遺跡（四次調査）、唐木戸第3遺跡、西畦原第2遺跡（一次調査）、湯牟田遺跡（一次調査）、牧内第2遺跡、西畦原第2遺跡（二次・三次調査）、勘大寺遺跡（一次調査）、永牟田第1遺跡、銀座第2遺跡、尾小原遺跡（二次調査）、老瀬坂上第3遺跡、向原第1遺跡、虚空蔵免遺跡、赤石・天神本遺跡、西ノ別府遺跡、下耳切第3遺跡、唐木戸第4遺跡、東畦原第1遺跡（二次調査）、東畦原第1遺跡（三次・四次調査）、上新開遺跡（旧石器）	個人	資料調査 博士論文作成のための資料調査	H18. 7.24 ～8.4
西下本庄遺跡、学頭遺跡、豊満大谷遺跡、右葛ヶ迫遺跡、春日遺跡、内野々遺跡、上別府遺跡、田代ヶ八重遺跡、祇園原遺跡、黒草遺跡、平畑遺跡、前原北遺跡、七又木地区遺跡（孔列文土器）	個人	博士論文作成のための資料調査	H18. 8.17 ～18
東畦原第1遺跡（二次調査）、東畦原第1遺跡（三次・四次調査）、上新開遺跡、銀座第2遺跡、老瀬坂上第3遺跡、野首第1遺跡（旧石器）	個人	博士論文作成のための資料調査	H18. 8.25 ～28
宮崎県史 資料偏考古2（永谷横穴群、雲雀山横穴）	個人	資料調査	H18. 9. 5
東畦原第2遺跡（ナイフ形、角錐状、接合資料）	個人	資料調査	H18. 9.14 ～17

遺跡・利用資料	利用者	利用目的	利用日
野首第1遺跡、白ヶ野第2・第3遺跡、天神河内第1遺跡（縄文土器）	個人	論文作成のための資料調査	H18. 9.22
高野原遺跡第5地点、音明寺第2遺跡、北牛牧第5遺跡、上ノ原遺跡（旧石器）	個人	資料調査	H18. 9.28
鶴野内中水流遺跡、上の原第2遺跡、竹之内遺跡、木脇遺跡、倉岡第2遺跡、内城跡、別府原遺跡、大野原遺跡、古城遺跡、布平遺跡（旧石器）	個人	博士論文作成のための資料調査	H18.10. 3 ～12
矢野原遺跡、蔵田遺跡、木脇遺跡、南学原第1遺跡、南学原第2遺跡、北牛牧第5遺跡、牧内第1遺跡、音明寺第2遺跡（二次調査）、上新開遺跡（剥片尖頭器、角錐状石器）	個人	論文作成のための資料調査	H18.10.11 ～13
平畑遺跡、余り田遺跡、右葛ヶ迫遺跡、平田迫遺跡（布痕土器）	個人	論文作成のための資料調査	H18.10.16 ～18
平畑遺跡、市位遺跡、白ヶ野第3遺跡B地区（布痕土器）	個人	論文作成のための資料調査	H18.11. 7
天神河内第2遺跡、内屋敷遺跡、竹之内遺跡、杉ノ木原遺跡、木脇遺跡（旧石器時代～弥生時代）、内城跡、白ヶ野第2・第3遺跡、尾花坂上遺跡（縄文早期の土器「辻タイプ」）	個人	論文作成のための資料調査	H18.11.27
上ノ原遺跡、長藪原遺跡、下屋敷遺跡（剥片尖頭器）	個人	論文作成のための資料調査	H18.12. 7
東畦原第1遺跡（二次調査）、東畦原第1遺跡（三・四次調査）、上新開遺跡、老瀬坂上第3遺跡、下耳切第3遺跡、唐木戸第4遺跡、尾小原遺跡（二次調査）（旧石器）	個人	資料調査	H19. 1.27 ～28
西下本庄遺跡（朱玉）	個人	資料調査	H19. 2. 9
白ヶ野第3遺跡B地区、白ヶ野第2・第3遺跡、上の原第1遺跡（縄文早期土器片）	個人	資料調査	H19. 2.10

### 館外貸出

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
矢野原遺跡 剥片尖頭器 上ノ原遺跡 剥片尖頭器	2点 1点	常設展示資料作成のため	H18. 8.10 ～ H18.10.31	独立行政法人国立科学博物館
下耳切第3遺跡 勾玉 （SNI第1主体部出土） （SNI第2主体部出土）	2点	「夏休み子ども教室・歴史講座教室」において勾玉作りの参考資料	H18. 8.22 ～ H18. 8.25	高鍋町教育委員会
平田迫遺跡 石帯 竹淵C遺跡 風字硯 下田畑遺跡 SA1出土土器一括 SA2出土土器一括 遺跡全景写真 小山尻東遺跡 緑釉碗 緑釉皿 越州窯系青磁	1点 2点  17点 34点 3点 1点 1点 1点	企画展「裳は輝いたか？」展示	H18. 7. 1 ～ H18. 9.30	県立西都原考古博物館

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
ホームページ内の写真資料「埋蔵文化財センター紹介」→「センター業務」	31件	校内資料室に掲示するため	資料室が存在する間	串間市立大平小学校
木脇遺跡 石器 下星野遺跡 石器 霧島遺跡 石器 北牛牧第1遺跡 石器 東畦原第1遺跡 石器 音明寺第1遺跡 石器 老瀬坂上第3遺跡 石器 唐木戸第3遺跡 石器	11点 23点 4点 6点 9点 37点 22点 36点	蛍光X線分析（非破壊）実施	H18. 8.25 } H18. 9. 5	熊本大学大学院社会文化科学研究科
写真資料 枯木ヶ迫遺跡 SA5埋喪検出状況（図版6） 竹淵C遺跡 SA17竈（巻頭図版3） 下耳切第3遺跡 SA40～42（巻頭図版5）、SA24（巻頭図版5）SA4（巻頭図版5） 荒迫遺跡 B2地区畝状遺構（図版）、D地区畝状遺構検出状況（図版） 大内原遺跡 1号土坑（図版8）	1点 1点 3点 2点 1点	テーマ展「古代の調理法～火処が語る調理の変化」での展示	H18. 8. 9 } H18.10.18	県立西都原考古博物館
実物資料 向原第1遺跡 甕等 前ノ田村上第1遺跡 コムギ、アワ 枯木ヶ迫遺跡 甕等 竹淵C遺跡 柄杓受部等 山崎上ノ原第2遺跡II 甕形土器等 永牟田第2遺跡 移動型 甕等 神殿遺跡B 製塩土器 下耳切第3遺跡 高坏等 その他（圧痕土器）	203点 4点 2点 8点 6点 3点 1点 41点 4点	テーマ展「古代の調理法～火処が語る調理の変化」での展示	H18. 8.29 } H18.10.18	県立西都原考古博物館
孔列文土器 西下本庄遺跡 破片 倉岡第2遺跡 破片 右葛ヶ迫遺跡 破片	5点 37点 1点	2006年度日韓交流展「稲の来た道」での展示	H18.10. 3 } H18.12.28	県立西都原考古博物館
木脇遺跡 石器 下星野遺跡 石器 霧島遺跡 石器 北牛牧第1遺跡 石器 東畦原第1遺跡 石器 音明寺第1遺跡 石器 老瀬坂上第3遺跡 石器 唐木戸第3遺跡 石器	11点 23点 4点 6点 9点 37点 22点 36点	蛍光X線分析（非破壊）実施	H18.11. 9 } H18.12. 9	熊本大学大学院社会文化科学研究科



貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
実物資料		平成18年度企画展「中世日向を考える」での展示	H18.12.16 }	県立西都原考古博物館
余り田遺跡 鉄鎌等	7点		H19.3.30	
前田遺跡 下駄等	2点			
西下本庄遺跡 土師器等	86点			
右葛ヶ迫遺跡 鉄製鍬	1点			
竹ノ内遺跡 白磁碗等	3点			
平田迫遺跡 蔵骨器等	6点			
中別府遺跡 青磁器等	2点			
本城原遺跡 染付合子蓋等	7点			
塚原遺跡 曲物?	1点			
内城跡 白磁碗	1点			
迫内遺跡 古瀬戸瓶子	3点			
鴉尾遺跡 白磁碗	1点			
教塚遺跡 経筒	3点			
大岩田上村遺跡 土師器等	8点			
池島遺跡 青磁皿等	3点			
竹淵C遺跡 銅製蓋	1点			
大内原遺跡 墨書石	1点			
鳩園遺跡 萩山吹双鳥鏡等	13点			
穂北城跡 三彩盤	3点			
天神河内第1遺跡 土師質火鉢等	3点			
学頭遺跡 硯等	4点			
山内石塔群古瀬戸系蔵骨器	8点			
堂地東遺跡 土師器杯	26点			
小山尻西遺跡 鉄地鍔物鐔	1点			
写真資料		平成18年度企画展「中世日向を考える」での展示	H18.12.26 }	県立西都原考古博物館
西下本庄遺跡 調査区西側全景	1点		H19.3.30	
平田迫遺跡				
2号蔵骨器内のおさえ石と火葬骨	1点			
I区北石積遺構B・C	1点			
I区北石積遺構B蔵骨器検出状況	1点			
中尾遺跡 小溝状遺構群	1点			
迫内遺跡 B区磨崖板碑	1点			
本城跡 曲輪VII堀切1完掘状況	1点			
大岩田上村遺跡				
A区1号土壙墓検出状況	1点			
池島遺跡 周溝墓(SM1)完掘状況	1点			
前ノ田村上第1遺跡				
3区南部・4区北部完掘状況	1点			
山内石塔群 II区・検出状況	1点			
西畦原第2遺跡(二次・三次)3号陥し穴	1点	国立科学博物館常設展に利用するPC端末による展示	H19.1.26	独立行政法人国立科学博物館
東畦原第1遺跡(一次調査)調査第Ⅲ文化層の石器	1点	解説用として	~常設展が変更になるまでの期間	

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
八幡遺跡 筒形碗他	25点	「日向国の江戸時代展」での展示	H19. 1.29 ～ H19. 3.23	県立総合博物館

### 刊行物掲載(写真提供)

資料名	掲載刊行物	依頼者	申請日
八尾遺跡 石鐮写真	『日本史リブレット42琉球の王とグスク』、書籍への本文挿図としてモノクロ掲載のため	株式会社山川出版社	H18.11. 9
新田場7号地下式横穴出土鉄鎌写真	『復元七支刀』、書籍への本文挿図としてモノクロ掲載のため	(株) 雄山閣	H18.12. 1
妙見遺跡 ナイフ形石器、角錐状石器写真、大岩田上村遺跡 石器写真、大岩田遺跡遠景写真、妙見遺跡黒曜石原石写真、上牧第2遺跡 阿高式土器写真、大萩遺跡D区5号土壙墓実測図写真、萩遺跡G地区4号竪穴住居跡写真、下大五郎遺跡6号竪穴住居跡写真、下大五郎遺跡 出土遺跡写真、御池ボラ調査写真、上ノ原遺跡人骨写真、大萩遺跡写真、旭台7号遺跡写真、日守遺跡写真、妙見遺跡写真、大島島田遺跡遠景写真、大島島田遺跡全体写真、大島島田遺跡遺構復元図写真、遺構(墨書土器)写真、中尾遺跡島跡検出状況写真、鳩蘭遺跡石組祭祀遺構の写真	『図説北諸・西諸の歴史』、書籍への本文挿図として掲載のため	株式会社郷土出版社	H18.12. 8
堂地西遺跡発掘調査風景、堂地西遺跡礫群、堂地東遺跡全景、堂地東遺跡竪穴住居跡、熊野原遺跡B地区竪穴住居跡分布図、熊野原遺跡B地区出土土器、前原北遺跡竪穴住居跡、下那珂遺跡出土土龍文鏡、下那珂遺跡竪穴住居跡、下那珂遺跡出土石庖丁、山崎下の原遺跡出土金銅馬具、西下本庄遺跡遠景、西下本庄遺跡Ⅱ区流路状遺構掘り下げ状況、余り田遺跡墨書土器(「日万」、「而」、「伊益奉」)、山内石塔群検出状況	『図説宮崎・南那珂・東諸の歴史』、書籍への本文挿図として掲載のため	株式会社郷土出版社	H18.12.12
西下本庄遺跡遠景、西下本庄遺跡調査区西側全景、西下本庄遺跡SE10(南から)、西下本庄遺跡遺物写真(陶磁器類)「コ」字形に復元配列された石塔群、高岡麓遺跡全景、高岡麓遺跡陶磁器等出土遺物	『図説宮崎・南那珂・東諸の歴史』、書籍への本文挿図として掲載のため	株式会社郷土出版社	H19. 1.15
塚原遺跡C地点(赤彩土器)、塚原遺跡C地点(石器)、塚原遺跡C地点全景、別府原遺跡(炉穴・炉穴の分布図)	『図説宮崎・南那珂・東諸の歴史』、書籍への本文挿図として掲載のため	株式会社郷土出版社	H19. 1.25



### (9) 見学・研修・体験学習等の受入れ

埋蔵文化財センターや発掘調査現場での見学や研修、体験学習を取り入れる学校や教育機関が増加している。平成18年度は分館見学、発掘調査現場見学・発掘体験学習、職場体験学習が実施され、児童・生徒や学生等をはじめ広く県民を受け入れた。

内容	場所	依頼者	実施日	参加者
施設見学	埋蔵文化センター分館	宮崎市立港小学校	H18. 5.19	97名
施設見学	埋蔵文化センター分館	小林市立細野中学校	H18. 7. 3	21名
施設見学	埋蔵文化センター分館	日向市立美々津公民館	H18. 8. 3	21名
現場見学	黒仁田遺跡	県秘書広報課	H18. 8. 4	28名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	田野歴史サークル	H18. 8.30	13名
教職経験10年経過研修	尾花A遺跡	県教育研修センター	H18. 10.16～18	29名
職場体験学習	尾花A遺跡(B区)・埋蔵文化財センター本館	宮崎市立広瀬中学校	H18. 10.17～19	4名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	国富町立本庄小学校	H18. 11. 9	20名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立赤江東中学校	H18. 11.14	12名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	大阪府文化財センター	H18. 12. 1	50名

### (10) 広報出版物

埋蔵文化財保護啓発活動の一環として、埋蔵文化財センターの「事業案内」及び「埋分通信」の発行や「ここまでわかったひむかの歴史」、「遺跡が語るひむかの歴史2006」、施設公開等についてもポスターやパンフレット、資料等の作成・刊行を行っている。

	広報出版物	発行年月
1	平成18年「ここまでわかったひむかの歴史～展示を待つ遺物たち～」第1回「山里の生活～縄文時代と弥生時代～」ポスター及びチラシ	H18. 4
2	遺跡が語るひむかの歴史2006 ～平成17年度発掘調査報告会～・平成18年度第1回巡回展 ポスター及びチラシ	H18. 6
3	平成18年度「ここまでわかったひむかの歴史」第2回「延岡城跡第24次（内堀調査の概要）～新発見！石垣桐木などを中心として～」ポスター及びチラシ	H18. 8
4	平成18年度「ここまでわかったひむかの歴史～展示を待つ遺物たち～」第3回「縄文時代の夜明け」ポスター及びチラシ	H18. 9
5	平成18年度 施設公開～こんなことしています～ ポスター及びチラシ	H18.10
6	平成18年度「ここまでわかったひむかの歴史～展示を待つ遺物たち～」第4回「中世の墓」考 ポスター及びチラシ	H18.11
7	平成18年度「ここまでわかったひむかの歴史～展示を待つ遺物たち～」第5回「宮崎の狩人たち」ポスター及びチラシ	H19. 1
8	平成19年度 宮崎県埋蔵文化財センター「事業案内」	H19. 2
9	平成18年度「ここまでわかったひむかの歴史～展示を待つ遺物たち～」第6回「鏡が照らす古墳時代」ポスター及びチラシ	H19. 3
10	埋蔵文化財通信「みやざき」8号	H19. 3

## (11) ホームページ

平成18年3月末にホームページのトップページやコンテンツを大幅に見直し、現地説明会や発掘体験などの事業の案内・報告の内容充実、発掘情報のリアルタイムでの情報提供を目指している。今後は、これまでの発掘調査の実績をもとに写真や地図情報等を盛り込みさらに分かりやすいものにしていく計画である。

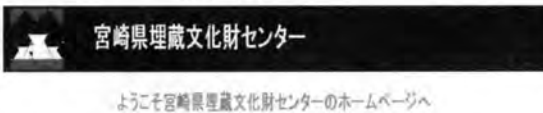
### 旧トップページ



トップページ | センター紹介 | センターからのご案内 | 埋文ニュース | デジタルミュージアム

Copyright(C) Miyazaki Prefectural Center for Archaeological Operations 2003. All rights reserved.  
各ページに掲載の写真及び記事等の無断転載を禁じます。

### 新トップページ



**埋蔵文化財センター案内**

- 埋蔵文化財センター紹介
- センターへのアクセス
- センターの位置(地図)
- 申請書様式

**もっと知りたい・聞きたい**

- 宮崎県歴史年表
- 出張講座
- 資料の貸出
- 発掘調査豆知識

**サイトマップ**

**▼現在発掘中の遺跡**

【中山遺跡(旧山崎)】

●現地説明会・講演会等のお知らせ

※2月23日(祝日開催)  
『埋蔵文化財センター主催の中山遺跡(旧山崎)現地説明会が行われました。』

『ここまでわかつひむかの歴史(1) 宮崎の歴史(1)の遺跡公開ツアーが完了しました。』

■新着情報・更新情報 (2007年)

※1月11日  
『中山遺跡(旧山崎)現地説明会報告』を追加しました。

※1月16日  
『中山遺跡(旧山崎)の発掘情報更新しました。』

**発掘調査情報**

イベント情報(事業案内)

- ここまでわかつひむかの歴史
- 現地説明会
- 巡回展
- 施設公開
- 発掘体験
- 遺跡が語るひむかの歴史

図書情報

リンク

お問い合わせ先

### ホームページコンテンツ一覧



## (12) 現地説明会及び成果報告会

平成18年度は現地説明会を4会場、成果報告会を2か所で開催した。

### 現地説明会

	遺跡名	所在地	期日	参加者	事業内容
1	坂平遺跡現地説明会	日向市	H18.8.6	56名	東九州自動車道
2	尾花A遺跡現地説明会	川南町	H18.8.20	60名	東九州自動車道
3	黒仁田遺跡現地説明会	延岡市	H18.9.10	53名	一般国道218号北方延岡道路建設事業
4	中山遺跡現地説明会	日向市	H19.1.28	95名	東九州自動車道

### 成果報告会

	遺跡名	実施場所	期日	参加者	事業内容
1	川南町内遺跡調査報告会	川南町文化ホール	H19.2.3	117名	東九州自動車道
2	都農町内遺跡調査報告会	都農町民図書館	H19.3.4	72名	東九州自動車道

## (13) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

内容	派遣期日	依頼者	派遣職員
山中遺跡群発掘調査に伴う調査指導	H19.1.26	小林市教育委員会	藤木 聡
山中遺跡群発掘調査に伴う調査指導	H19.2.6	小林市教育委員会	柳田 裕三
市内遺跡発掘調査に伴う調査指導	H19.2.15	延岡市教育委員会	松林 豊樹
町内遺跡発掘調査に伴う高城城跡調査指導	H19.3.1・16・28	木城町教育委員会	福田 泰典

## (14) 埋蔵文化財専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内容	場所	期日	参加者数
埋蔵文化財担当専門職員研修会(1) 土器観察の一視点 ～土器に残る種子圧痕について～	埋蔵文化財センター分館	H18.7.21	市町村担当 29名 考古博物館職員 1名 センター職員 35名 計65名
埋蔵文化財担当専門職員研修会(2) 土器観察の一視点 ～胎土中の鉱物に着目して～	埋蔵文化財センター分館	H19.3.2	市町村担当 18名 考古博物館職員 2名 センター職員 41名 計61名

### 3 会議・職員研修

#### (1) 各種会議等への参加

独立行政法人奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内 容	日 程	開催地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	H18. 5.24～26	滋賀県近江八幡市	谷口 武範
県地方史研究連絡協議会総会	H18. 6. 6	宮崎市	赤崎 広志
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	H18. 9. 7～8	岡山県総社市	菅付 和樹
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員 会	H18.11.16～17	千葉県市原市	岩永 哲夫 宮越 尊
埋蔵文化財担当者専門研修(中近世城郭調査課 程)	H18.12.12～19	奈良文化財研究所	福田 泰典
文化庁埋文担当職員等講習会	H19. 1.11～12	熊本県山鹿市	橋本 英俊
遺跡整備・活用研究集会	H18. 1.25～26	奈良文化財研究所	和田 理啓 松林 豊樹

#### (2) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、各講習会へ参加している。

内 容	日 程	参加者
地山掘削・土止め支保工作業主任者技能研修会	H18. 4.19～21	竹田 享志
安全衛生推進者養成講習	H18. 5.16～17	甲斐 和也 森本 征明 立神 勇志 堀口 悟史 三品 典生 岡田 諭 日高 優子 黒木 俊彦
救急講座(救命・応急手当)	H18. 5.30 H18. 5.31	総務課・調査第一課・調査第二課・ 普及資料課
第一種衛生管理者免許試験受験準備講習 第二種衛生管理者試験	H18. 6.14～16 H18. 8.17	和田 理啓
安全衛生管理研修会	H18.10. 6	高山 正信

## 4 資料紹介

### 囲遺跡(仮称)出土の遺物について

#### (1) 発見の経緯

囲遺跡(仮称)は、宮崎市佐土原町にある宮崎県埋蔵文化財センターの東隣にあり、宮崎県農業試験場の所有する農地である。近年までは蚕業試験のための桑畑として利用されていた。平成10年度に当センター建設に伴い、県文化課により隣接地の試掘調査が実施された。その際には、須恵器片1点が耕作土から出土したのみで埋蔵文化財包蔵地としては認定されていなかった。その後、当該農地で平成18年2月に天地返しを実施された際、当センター職員が踏査したところ相当数の遺物が表採できたため、再度、当センター職員による詳細な分布調査を実施した。

今回分布調査を実施した場所は、石崎川がS字状に曲がった袋状の低地に立地しており、「<sup>かこい</sup>囲」という字名がついている。入り口は狭く奥は広く、三方が川に囲まれる。そのため、城とすればかなりの要害であったはずであるが、確実な城郭遺構は認められていない(末永和孝2005)。明治時代には『西郷札』(紙幣)の製造所として利用されたという説が残る「瓢箪島」の比定地の一つでもある(戊亥浩志2003ほか)。当該地の北側(石崎川対岸)には、小牧遺跡(中・近世)・小平遺跡(弥生)など、西側には平村第3遺跡(弥生～中世)などが近接している(第1図参照)。

#### (2) 分布調査の概要

分布調査した面積は約7,144㎡で、平成18年5月1日～2日に調査を実施した。調査方法は、事業地の東西からの約2m毎の踏査による表採を行った。

その結果、弥生土器、須恵器、陶磁器など弥生時代から近現代に至るまでの遺物が表採された。遺物の分布状況は均一ではなく、事業地の北部(第2図①)に集中してみられ、他の部分は希薄であった。また、表採された遺物は、黒色や灰色のシルト質土などの特定の土塊に含まれることが多かった。

分布調査の結果は、平成18年6月2日付0820-642で文化財課長あてに報告し、総合農業試験場については、今後、天地返しなどの事業を行う場合には、県文化財課もしくは県埋蔵文化財センターと事前協議するよう依頼した。

#### (3) 表採遺物

表採された遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石包丁、土錘、銑鉄と思われる鉄塊など854点であり、今回は、その中から古代以降の遺物37点を掲載報告することにした。

##### ① 近世の遺物

1～2・4～7は陶器、3は染付碗である。1・2ともに皿の底部であり、1は内面が灰黄色、外面は浅黄色を呈する。釉は内面(見込み)や底部外面付近まで施されているが、高台は無釉である。2は全面に施釉されており、灰白色を呈する。見込みに重ね焼きによる砂目の痕跡が確認される。3は碗の底部である。外面には草花文の染付がある。高台外面に2条の回線が巡る。

4～7は甕の底部であると思われる。4の外面には回転ヘラケズリが施されているが、施釉は認められない。外底部には切り離し後のナデがみられる。5は外面に回転横ナデが施され、外面すべてに鉄釉が施されているようである。6は残存している器形から瓶子とも考えられる。全外面に灰釉が施されている。7は外面に平行叩き・ナデ・静止ヘラケズリの調整があり、褐灰色を呈している。内面にはナデ・ユビオサエの調整があり、黄灰色を呈している。胎土には3mm以下の白色の礫を含んでいる。

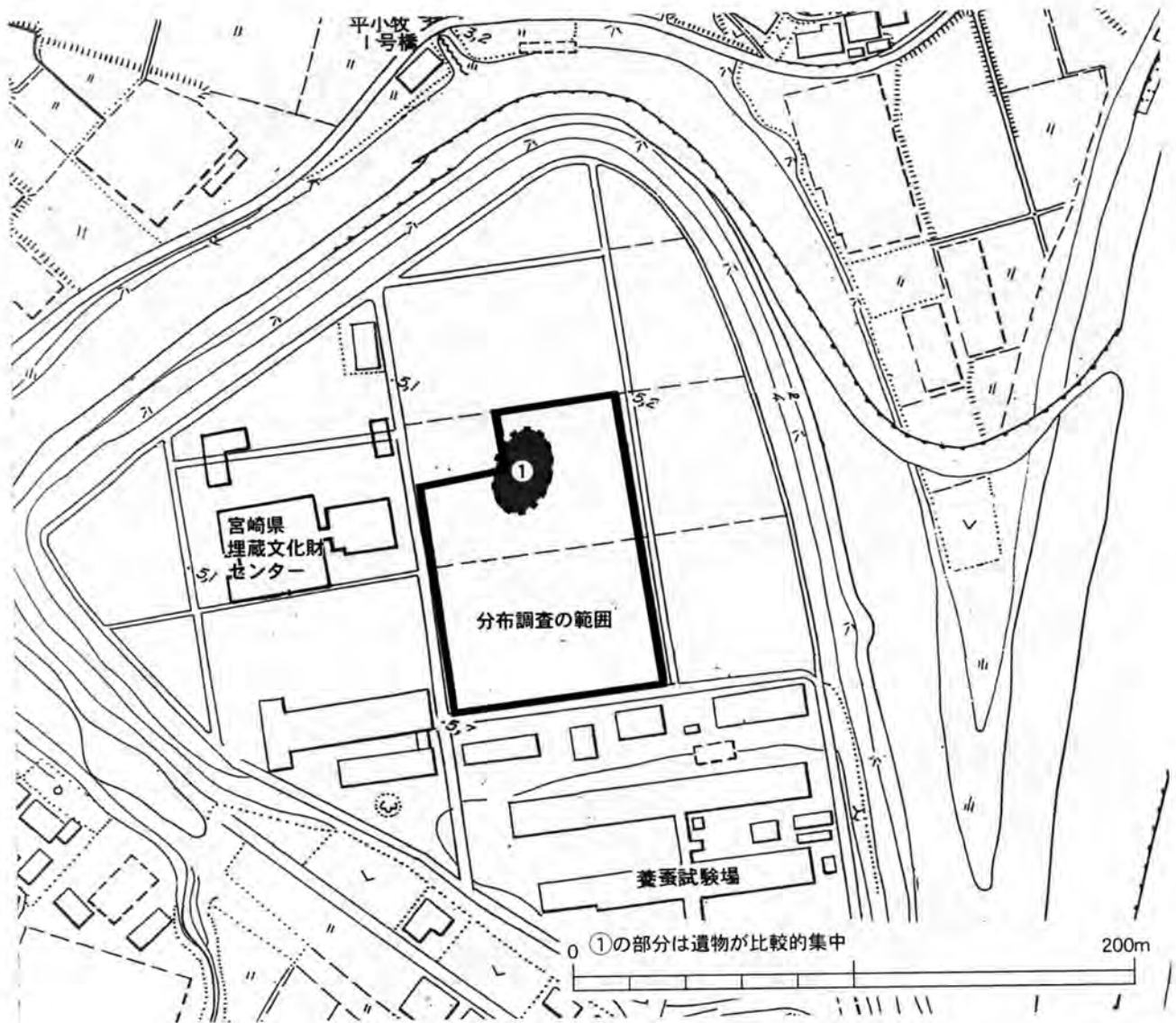




第1図 開遺跡の位置と周辺の遺跡(S=1/25,000)

- |             |             |            |            |             |             |             |
|-------------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 開遺跡      | 2. 広瀬村古墳群   | 3. 那珂村古墳群  | 4. 伊賀給遺跡   | 5. 中溝第1遺跡   | 6. 尾原第1遺跡   | 7. 平村第1遺跡   |
| 8. 平村第2遺跡   | 9. 尾原第2遺跡   | 10. 尾原第3遺跡 | 11. 平村第3遺跡 | 12. 小平遺跡    | 13. 小牧遺跡    | 14. 中溝第2遺跡  |
| 15. 下ノ山第1遺跡 | 16. 下ノ山第2遺跡 | 17. 明神山遺跡  | 18. 下山遺跡   | 19. 人中第1遺跡  | 20. 井上第2遺跡  | 21. 成枝権現遺跡  |
| 22. 馬場住遺跡   | 23. 白坂遺跡    | 24. 西ノ城遺跡  | 25. 田淵田遺跡  | 26. 黒防遺跡    | 27. 檜遺跡     | 28. 井上第2遺跡  |
| 29. 福塚遺跡    | 30. 井上第3遺跡  | 31. 人中第2遺跡 | 32. 諏訪山遺跡  | 33. 城ヶ峰第1遺跡 | 34. 城ヶ峰第2遺跡 | 35. 七ヶ廻遺跡   |
| 36. 一丁目遺跡   | 37. 平廻遺跡    | 38. 下那珂遺跡  | 39. 西大坪遺跡  | 40. 白川遺跡    | 41. 六峰遺跡    | 42. 田俣遺跡    |
| 43. 宮ヶ下遺跡   | 44. 仲ノ丸遺跡   | 45. 釘元遺跡   | 46. 東亀田遺跡  | 47. 小亀田遺跡   | 48. 牛ヶ迫遺跡   | 49. 上平田第1遺跡 |
| 50. 上平田第2遺跡 | 51. 扇ノ丸遺跡   | 52. 七曲遺跡   | 53. 平松遺跡   | 54. 笹松原遺跡   | 55. 原遺跡     | 56. 奈良木遺跡   |
| 57. 竹下遺跡    | 58. 竹ヶ島遺跡   | 59. 片瀬原遺跡  | 60. 川添遺跡   |             |             |             |

※2～3は指定文化財。下線は古墳時代以前の遺跡である



第2図 分布調査範囲位置図(S=1/2,500)

## ② 中世の遺物

8～13は東播系須恵器のこね鉢で、8～12は口縁部、13は底部である。8は外面に回転ナデ、内面には回転横ナデ・ナデを施し、色調は明紫灰色である。胎土に1mm前後の白色・黒色の円礫を含んでおり、焼成は堅緻である。9は内・外面ともにオリーブ灰色を呈しており、回転横ナデの調整が確認できる。片口部が一部確認でき、焼成は堅緻、胎土に極小の砂粒を含む精良なものである。10は内・外面ともに明紫灰色を呈し回転横ナデで調整している。焼成・胎土の状況は9と同様、堅緻・精良である。11は内・外面ともに灰白色で、外面のみに回転横ナデがみられる。他のものに比べ焼成はやや甘く、胎土は精良である。12は外面は灰、内面は灰白色を呈し、外面のみに回転横ナデがみられる。焼成は堅緻で、胎土は精良である。13は内・外面ともにオリーブ灰を呈しており、調整は判然としない。焼成は堅緻で、胎土は精良である。

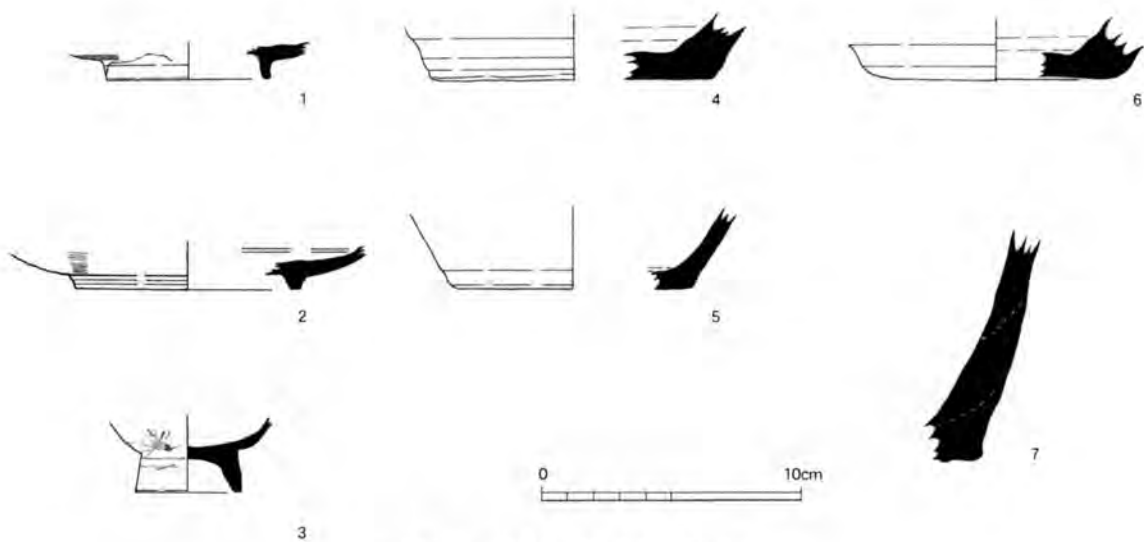
14～18は土師器である。すべての底部に糸切り痕が見られる。14、17は坏の底部、15～16は皿の底



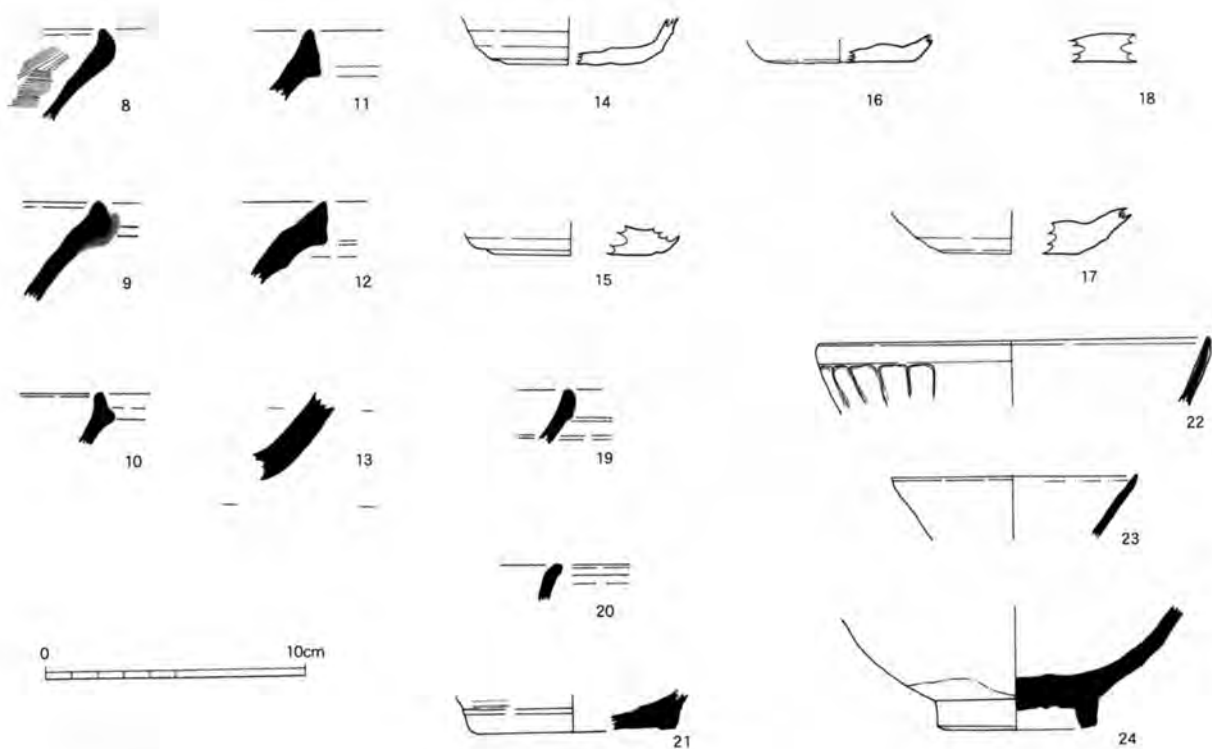
部である。15は外面に回転ヘラケズリがみられる。16は底部からの立ち上がりがやや内湾している。18については底部の一部のみで器種の確定が難しいが、大きさ、形状から坏の底部ではないかと考えられる。色調は橙色系統で焼成は概ね良好である。胎土は14・18については、やや大きめの砂粒を含むが、他のものは極小の砂粒を含む精緻な胎土である。

19・21・23・24は白磁碗である。19は口縁部に肉厚な玉縁を有する。外面には横ナデ調整が見られる。内・外面には灰白色の釉が施されており、大宰府分類白磁碗Ⅳ類にあたる。21は白磁碗である。内面だけに施釉されており、外面は無釉である。大宰府分類白磁碗Ⅳ類にあたる。23は口径は約10cm。胎土は灰白色である。全面に灰白色の釉が施されている。ただし、口唇部は口禿げとなっている。大宰府分類白磁碗Ⅸ類にあたる。24は灰色を帯びた白色の釉が内面と外面上部に施されている。底部から高台には無釉である。大宰府分類白磁碗Ⅴ類にあたる。

20は青磁碗の口縁部である。端反り口縁をなし、回転横ナデの調整がある。22は龍泉窯系青磁碗である。口径は約15cm。胎土は灰白色で、全面に明緑灰色の釉が厚く均一に施されている。体部外面には蓮弁文が施されている。大宰府分類青磁碗Ⅲ類にあたる。また、細片で図化が困難であったもので同安窯系青磁碗が確認できた(図版・出土遺物観察表の37)。内・外面ともにオリブ黄の施釉が施されており、ガラス光沢を有する。外面には細かい縦の櫛目文がある。



第3図 近世の遺物実測図(S=1/3)



第4図 中世の遺物実測図(S=1/3)

### ③ 古代の遺物

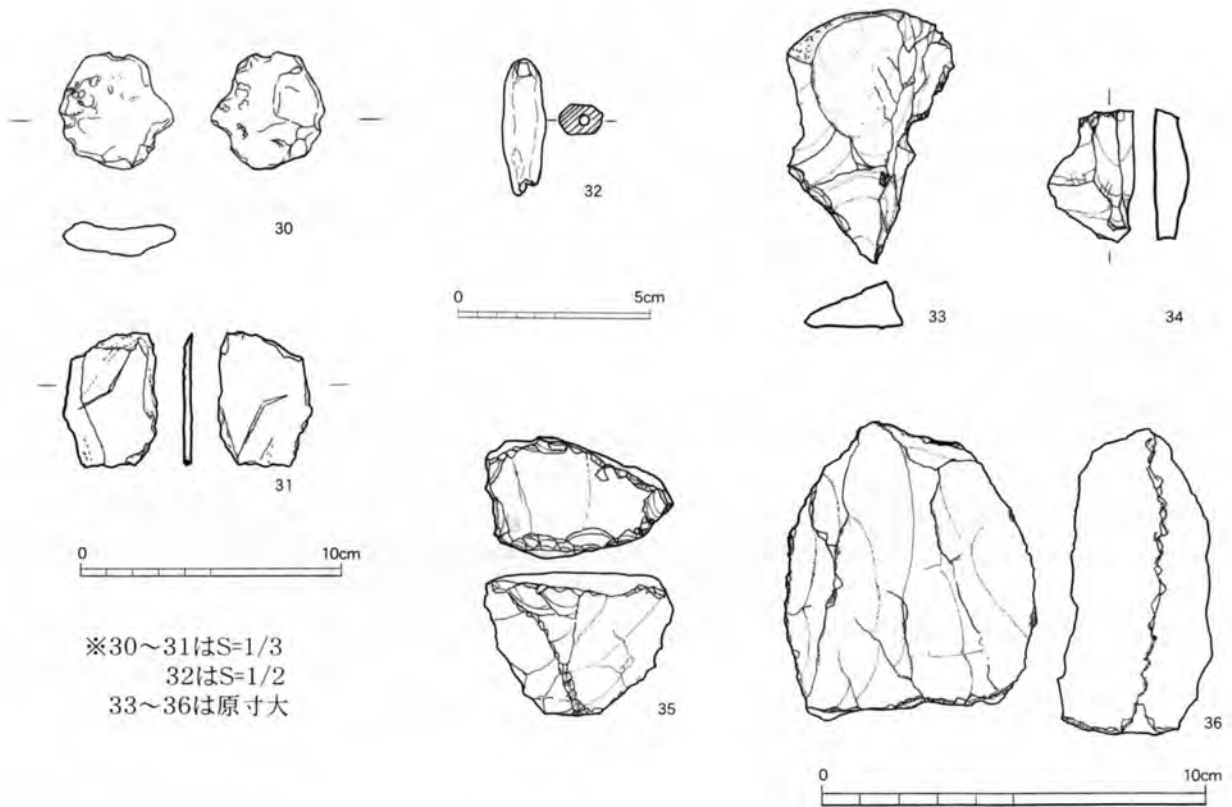
25～28は須恵器で、25・26は坏の口縁部、27・28は甕の胴部である。25・26ともに内・外面ともに回転横ナデの調整が見られる。25・26ともに残存部の最下部が内側にやや屈曲しており、底部に近いと考えられる。25は口縁部がやや外湾、26はやや内湾して口唇部が尖り気味である。27は外面にカキメ、内面には同心円状のアテ具痕を有する。28は外面は灰白色で工具による平行叩き、内面は明オリーブ灰色で同心円状のアテ具痕を有する。29は土師器の坏である。底部にヘラ切り離しの痕跡が確認される。色調は内画面ともに浅黄橙色で、焼成は良好、胎土は精緻なものである。底部がヘラ切り離しであることや胎土の状況から古代末の坏であると判断した。

### ④ 時期不明の遺物

30～36は、時期が判然としないが、おそらく近世以降の遺物と考えられる。30は鉄塊で、銹鉄と考えられる。表面は磨耗しているが、一部発泡している部分が観察できる。重量40.4g。31は石盤である。黒色の頁岩製剥片と思われ、その両端が潰れている。表面には縦方向の擦痕があり、両面に刃物によるものと思われる溝がある。重量9.8g。32は土錘である。ローリングによる磨耗が激しい。33～36は火打石である。33は灰緑色のチャート製不定形剥片を素材とする。チャートの石質は比較的良質で、礫面のカーブ具合からピンポン玉大の小円礫であったと推される。剥片は礫面より直接剥離され、剥片末端の両側縁に潰れが残される。最大長3.3cm・最大幅2.2cm・最大厚1.1cm・重量6.6g。34は乳白色半透明の玉随製



第5図 古代の遺物実測図(S=1/3)



※30～31はS=1/3  
 32はS=1/2  
 33～36は原寸大

第6図 時期不明の遺物実測図(S=1/3)

剥片である。剥離の衝撃によるものか、剥片は縦方向に二分され、さらに末端を欠く。背面打点部の稜が良く潰れる。最大長1.7cm・最大幅1.1cm・最大厚0.5cm・重量0.9g。35はチャート製であり、石質は節理が縦横に目立つもので、打製石鏃等の剥片石器素材としては良好でない。一見、細石刃核を思わせるような形状で、全ての稜は強く潰れ摩滅する。最大長1.9cm・最大幅2.4cm・最大厚1.6cm・重量8.0g。36は黄色がかったあまり良質でない石英製で、全ての稜線が強く摩滅する。最大長3.8cm・最大幅3.2cm・最大厚2.0cm・重量27.8g。  
[調査第二課 谷口 千尋]

#### ⑤ 火打石について

圃遺跡では、いくつかの火打石が表採されている(33~36)。県下での火打石の資料数はまだ少なく、今後の資料の増加と研究の深化を期待する意味で若干の検討を加えることとした。

33については、弥生時代以前の剥片素材の利器である可能性も残っている。しかし、他採集品に剥片石器資料が僅少なことや、チャート製小円礫を礫面から直接打ち欠いて火打石とする例が西都市宮ノ東遺跡・川南町銀座第1遺跡等でも散見されることから、火打石である可能性を積極的に考えることとした。34については、背面打点部の稜が良く潰れる点に注目した。潰れは他の縁辺・稜線に及んでおらず、ガジリでなく使用にともなうとみてよかろう。さらに、宮崎市・児湯郡一帯における近世以降の火打石に同石材が多用されることを考え合わせると、34は火打石使用時に出る打ち屑、あるいは「角取れて 打つ人もなし 火打石」角を失った火打石を新たに打ち欠いた時の剥片と考えられる。35・36については、石材・形状・潰れがやや摩滅する状態からみて火打石で異論なかろう<sup>1)</sup>。

ここまでの検討で33・35・36は火打石、34は近世以降の火打石に由来する剥片と判断した。数少ない採集資料とはいえ、未だ少ない宮崎市域の火打石関連資料を思えば本資料の持つ意義は非常に大きい。

註1) ただし、大前提として畑地等での表採資料から火打石を抽出することは困難である。なぜなら、火打石を最も特徴づける稜の潰れ・鉄サビの付着は、鉄製耕作具に起因するガジリによっても生じうるからである。旧石器遺跡掘造に用いられた石器の一部にも、同様の鉄サビの付着がみられたことは記憶に新しい。「本来的な使用痕なのか」「ガジリなのか」、細心の注意が必要である。

[調査第一課 藤木 聡]

#### (4) まとめ

今回の分布調査では、弥生時代から近現代に至までの多くの遺物が表採された。

埋蔵文化財センター周辺は、「西郷札製造所」の比定地のひとつであり、今回、近世の遺物が確認できたことは注目されたが、西郷札の製造を直接伺わせる遺物は確認できなかった。

古代に関しては、遺物が散見できるものの全体としてはあまり目立たない。中世の遺物に関しては、土師器、東播系の須恵器等のほか龍泉窯や同安窯系などの輸入磁器も確認でき、富裕層の生活痕跡を想定したくなる。当地ではなくともごく近辺に中世の屋敷地などが存在したことは間違いないだろう。

なお、古墳時代以前の遺物については、次年度以降に報告を行う予定である。

[調査第二課 和田 理啓]

表1：囲遺跡遺物観察表(1)

遺物 観察 番号	類別	器種	部位	計測値(cm)				色調		調整・文様ほか		胎土	焼成	備考	
				口径	口径	高さ	外直径	内直径	外	内	調整・文様ほか				
											外				内
1	陶器	皿	底部	5.5/6.4			浅黄	灰黄	回転模ナデ?・無輪一部あり	無輪あり。	精良	堅焼			
2	陶器	皿	底部	4.0/4.6			灰白	灰白	無輪あり。回転模ナデ	無輪あり。	精良	堅焼	見込みに砂目痕跡		
3	漆	付碗	底部	3.9/4.2			灰白	灰白	草花文染付あり。無輪あり。	無輪あり。	精良	堅焼	高台外周に2条の凹線あり		
4	陶器	壺	底部	11.0			緑灰	青灰	無輪	回転模ナデ	精良	堅焼			
5	陶器	壺	底部	9.0			暗紫灰	青灰	無輪あり。	回転模ナデ?	精良	堅焼			
6	陶器	壺?	底部	9.6			オリーブ	明青灰	回転模ナデ?無輪あり。	回転模ナデ	精良	堅焼	底切り隠し後ナデ		
7	陶器	壺	底部				補灰	黄灰	平行タタキ・ナデ・ヘラケズリ	ナデ・ユビオサエ	3mm以下の白色のレキを含む。	堅焼			
8	須恵器	こね鉢	口縁部				明紫灰	明紫灰	回転模ナデ	回転模ナデ・ナデ	1.5mm以下の白色・1mm以下の黒色の円レキを含む。	堅焼	東播磨系		
9	須恵器	こね鉢	口縁部				オリーブ	オリーブ	回転模ナデ	回転模ナデ	0.1mm程度の砂粒を含む。	堅焼	東播磨系 片口あり。		
10	須恵器	こね鉢	口縁部				明灰	明灰	回転模ナデ	回転模ナデ	0.1mm以下の砂粒を含む。	堅焼	東播磨系		
11	須恵器	こね鉢	口縁部				灰白	灰白	回転ナデ		精良	やや甘い	東播磨系		
12	須恵器	こね鉢	口縁部				灰	灰白	回転模ナデ		精良	堅焼	東播磨系		
13	須恵器	こね鉢	底部				オリーブ	オリーブ				堅焼	東播磨系		
14	土師器	碗	底部	6.2			橙	明赤褐	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	1mm程度の白色・黒色の粒を含む。	良好	未切り遺痕あり		
15	土師器	碗	底部	3.6			橙	明赤褐	回転ヘラケズリ	磨耗により不明瞭	極小の白色の粒を含む。	良好	未切り遺痕あり		
16	土師器	皿	底部	5.8			橙	浅黄	磨耗により不明瞭 回転ヘラケズリ?	磨耗により不明瞭 回転模ナデ?	1mm以下の褐色の粒を含む。	良好	未切り遺痕あり		
17	土師器	杯	底部	5.0			にぶい橙	橙	磨耗により調整不明	磨耗により調整不明	0.1mm程度の明赤褐色の粒やガラス質の粒を含む。	良好	未切り遺痕あり		
18	土師器	不明	底部				橙	橙			1~2mmの明赤褐色の粒を含む。	良好	未切り遺痕あり		
19	白磁器	碗	口縁部				灰白	灰白	無輪あり。模ナデ	無輪あり。	精良	堅焼	肉厚な玉縁		
20	青磁器	碗	口縁部				オリーブ	オリーブ	無輪あり。模ナデ	無輪あり。	精良	堅焼			
21	白磁器	碗?	底部	5.8/6.8			灰白	灰白	無輪なし。回転模ナデ	無輪あり。	極小の白色・褐色の粒をわずかに含む。	堅焼	回転模 底部には無輪なし。		
22	青磁器	碗	口縁部	15.0			明緑灰	明緑灰	無輪あり。蓮弁文あり。	無輪あり。	精良	堅焼	陸奥系系		
23	白磁器	碗	口縁部	9.6			オリーブ	灰白	無輪あり。	無輪あり。口縁部は口売げ	精良	堅焼	13C中~14C前期頃の標準磁器		
24	白磁器	碗	底部	5.0/6.3			灰白	灰白	無輪一部あり。回転ケズリ	無輪あり。	精良	堅焼	11C後半~12C前半の標準磁器		
25	須恵器	杯	口縁部				補灰	灰	回転模ナデ	回転模ナデ	精良	堅焼			
26	須恵器	杯	口縁部				灰白	灰	回転模ナデ	回転模ナデ	2mm程度の白色の粒を含む。	堅焼			
27	須恵器	壺	胴部				灰	灰	カキメ	同心円アテ具痕	1mm程度の黒色・白色・透明な鉱物粒を含む。	堅焼			
28	須恵器	壺	胴部				灰白	オリーブ	工具平行タタキ痕	同心円アテ具痕	0.5mm以下の白色・黒色の粒をわずかに含む。	堅焼			
29	土師器	杯	底部	5.6			浅黄橙	浅黄橙	回転ヘラケズリ	磨耗により不明瞭	極小の明赤褐色・褐色の粒を少量含む。	良好	へう切り隠し痕あり		
32	土	土					にぶい橙				緻密	良好			
37	青磁器	碗	口縁部				オリーブ	オリーブ	無輪あり。細かい縦の節目文あり	無輪あり	精良	堅焼	内・外面にガラス光沢あり		

表2：囲遺跡遺物観察表(2)

遺物 観察 番号	器種	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
30	鉄塊	5.0	4.3	1.1	40.4	銃鉄?

表3：囲遺跡遺物観察表(3)

遺物 観察 番号	器種	石材	計測値				備考
			高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
31	石盤	頁岩	5.1	3.6	0.3	9.8	表面には表裏に縦方向の磨痕 磨製石器の石材か?
33	火打石	チャート	3.3	2.2	1.1	6.6	全ての面は強く濡れ磨耗している。
34	火打石	石英(玉髓)	1.7	1.1	0.5	0.9	前面打点部の磨がよくなっている。
35	火打石	チャート	1.9	2.4	1.6	8.0	末端の両側縁が濡れている。
36	火打石		3.9	3.3	1.6	27.8	

《参考・引用文献》

- 池田征弘・久保弘幸・岡本一秀1998『神出窟跡群』兵庫県文化財調査報告書第171冊  
 戊亥浩志2003『西郷札造成所に関する考察』『西南戦争之記録』第二号  
 木村明史2003『小牧遺跡』佐土原町文化財調査報告書第25集  
 佐土原町教育委員会1991『佐土原町遺跡詳細分布調査報告書』佐土原町文化財報告書第5集  
 佐土原町史編纂委員会1982『佐土原町史』  
 末永和孝・木村明史2005『13回』『佐土原町の中近世城館』  
 太宰府市教育委員会編2000『太宰府条坊跡XV-陶磁分類編-』太宰府市の文化財第49集  
 九州陶磁学会編2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念誌

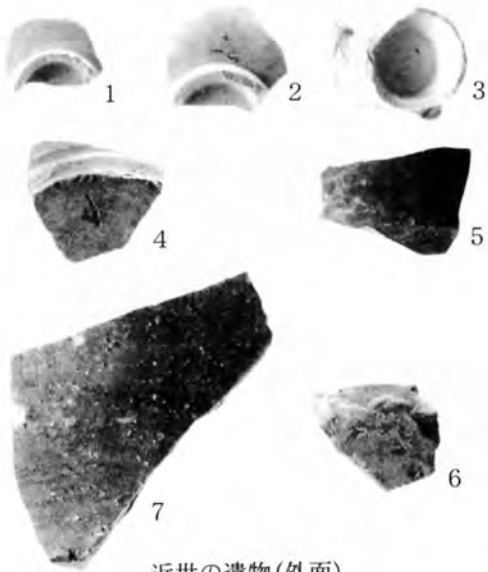




開遺跡遠景



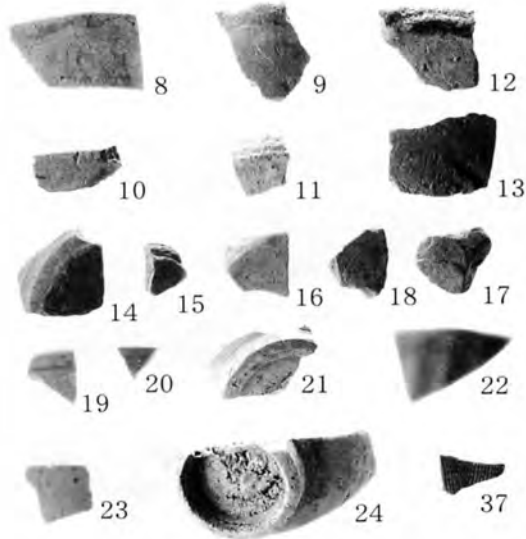
開遺跡全景



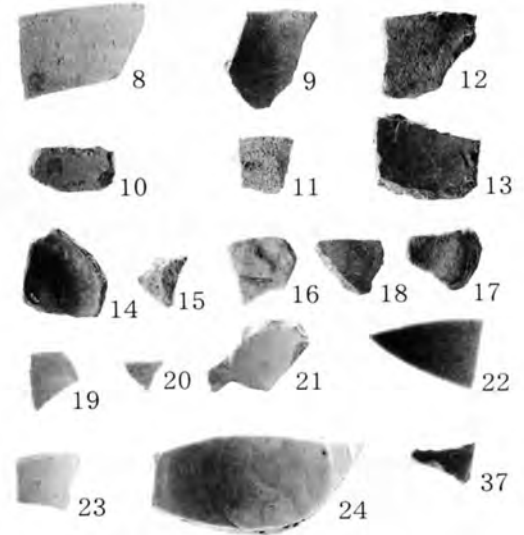
近世の遺物(外面)



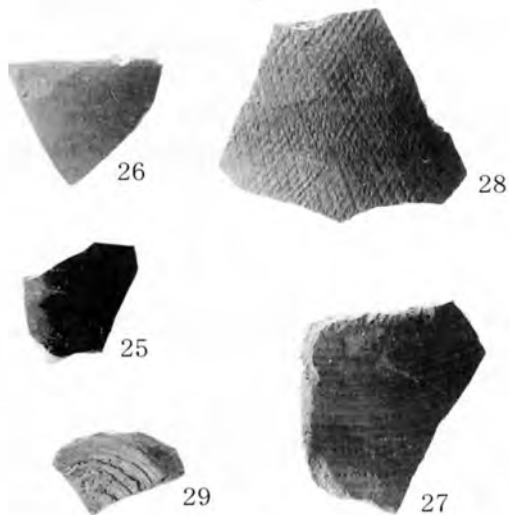
近世の遺物(内面)



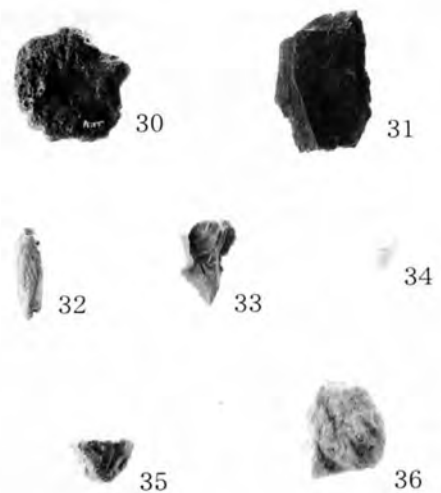
中世の遺物(外面)



中世の遺物(内面)



古代の遺物



時期不明の遺物



## IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(平成12.12.18 教育委員会規則第21号)

最終改正 平成18.3.30教育委員会規則第5号

(趣 旨)

第1条 この規則は別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館(以下「埋蔵文化財センター」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事 業)

第2条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

1. 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
2. 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
3. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
4. 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
5. 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
6. その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組 織)

第3条 埋蔵文化財センターに次の課を置く。

総務課
調査第一課
調査第二課
普及資料課

(分掌事務)

第4条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

1. 職員の人事、給与及び服務に関すること。
2. 予算の執行及び決算に関すること。
3. 文書の收受、発送及び保存に関すること。
4. 公印の管守に関すること。
5. 施設及び設備の管理に関すること。
6. その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査第一課

1. 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
3. 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

調査第二課

1. 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
3. 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

1. 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
2. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
3. 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料(以下「資料等」という。)の貸し出しに関すること。
4. 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2. 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。
3. 第一項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は次のとおりとする。
  - 第一順位 統括の副所長
  - 第二順位 業務担当の副所長
4. 第一項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要な応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副参事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 任	上司の命を受けて、専門的業務を処理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

- 第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要な応じ、その他の職員の職として技術員を置く。
- 2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

- 第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。
- 2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

- 第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区 分	休 館 日
宮崎県埋蔵文化財センター	1. 土曜日及び日曜日 2. 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。) 3. 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。) 4. 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター分館	1. 月曜日(休日にあたるときを除く。) 2. 休日の翌日(土曜日・日曜日又は休日に当たるときを除く) 3. 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで 4. 特別整理期間

- 2 所長は、必要があると認める時は、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

- 第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

1. 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
2. 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
3. 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
4. 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。
5. 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

- 第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

- 第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

1. 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
2. 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
3. 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
4. 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
5. 市町村立の歴史民族資料館等で宮崎県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が定めるもの。

6. その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第2号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
  1. 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
  2. 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
  3. 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

（弁 償）

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

（委 任）

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則（抄）

（施行期日）

1. この規則は、平成18年4月1日から施行する。

別記

様式第1号（第10条関係）

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所  
申請者 氏 名  
電話番号

（法人にあつては主たる事務所の所在地、  
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

## 資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所  
申請者 氏 名  
電話番号

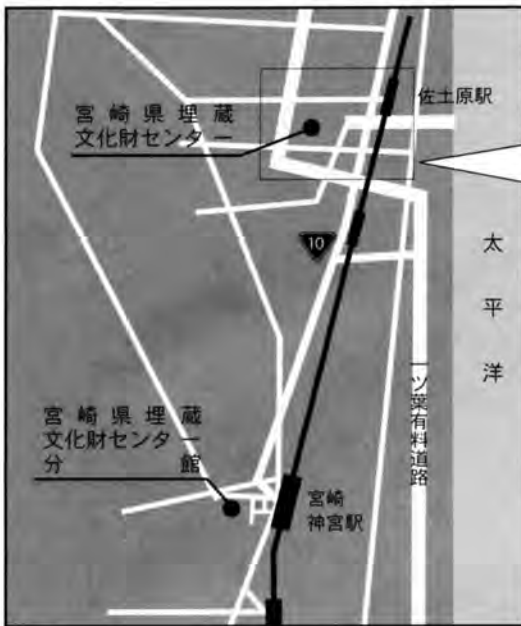
（法人にあつては主たる事務所の所在地、  
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

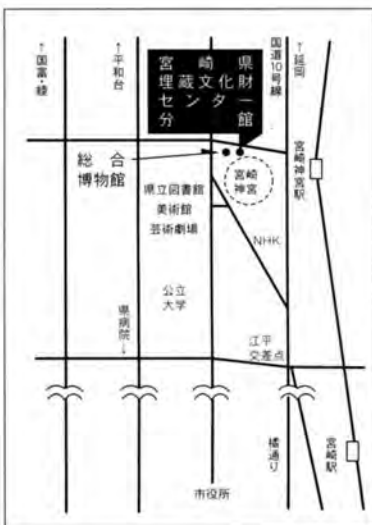


# (案内図)



## 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地  
 Tel.0985-36-1171・36-1172 Fax.0985-72-0660  
 E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp  
 URL <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>  
 ◎佐土原駅(JR)車10分 ◎御殿下バス停徒歩8分



## 宮崎県埋蔵文化財センター分館

宮崎市神宮2丁目4-4 (〒880-0053)  
 TEL 0985-21-1600  
 FAX 0985-26-2634

- 観覧時間  
午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日  
年末年始 (12月28日～1月4日)
- 入館料 無料
- 宮崎神宮駅 (JR) - 徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス - 神宮終点下車徒歩10分
- 綾・国富・平和が丘行きバス - 「博物館前」下車徒歩2分

宮崎県埋蔵文化財センター年報11号  
平成19年度（2007）

編集・発行：宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212  
宮崎市佐土原町下那珂4019  
発行月：平成18年7月  
印刷：有限会社 宮崎新生社印刷  
宮崎市新名爪中牟田766

## 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地  
Tel.0985-36-1171・36-1172 Fax.0985-72-0660

◎佐土原駅(JR)車10分 ◎御殿下バス停徒歩8分